

## 古文書を読んでみよう

令和4年9月16日

元若桜町立わかさ生涯学習情報館長

入江 宜明

### 1 古文書とは

過去の時代の史料となる古い文書。古文書学では差出人・受取人・用件・日付などを備えた公文書・私文書をいい、古記録と区別される。(広辞苑)

### 2 古文書の特徴

#### (1) 多くは和紙や板に墨書き

自然素材で長期穂残されてきて、特に近世以降の文書が残る。

(2) 多くはくずされた漢字で書かれており、幾通りものくずし字がある。

(3) 文体は子分(文語文・歴史的仮名づかい)で、いわゆる「<sup>そうろうぶん</sup>候文」。

(4) 句読点がないので、区切りが不明。

(5) 送り仮名や助詞が省略され、活用語尾や助詞を補って読む必要がある。

(6) 使用頻度が高い漢字は省略されて、記号のようになる。

「候」「被」「可」「以上」「㍻」

(7) 仮名に使う漢字(変体仮名)が多い。万葉集では仮名として漢字を使用。

(8) 見たことのない異体字や国字がある。

(9) 漢文の様式が文体に残るが、返り点はつかない。

(10) 本来の漢字で使う場合と、仮名で使う漢字が混在する。

### 3 古文書を読むことが困難な理由

(1) 様々にくずした漢字(旧字体を含む)や、現今の仮名文字以外の仮名(変体仮名)が多く、現今の教育では判読がむずかしい。

(2) 送り仮名や助詞が省かれているので、補って読むことが求められる。

(3) 見たこともない異体字や記号(省略文字)が出てくる。

(4) 熟語や言葉の意味が違う場合がある。

(5) 口語文と古語文の場合では、活用や読み方が違う場合がある。

(6) 日付、時刻、陰暦、改元、十干十二支、方位、度量衡、金銀銅貨、印や花押、文書の形式など現在との違い。

(7) 書き手が生きた時代と現在との、時代間ギャップが大きい。

当時の常識や生活習慣、風習、季節感などの広い知識を養うことができ、古文書を理解する上で必要となる。

### 4 参考図書

(1) 古文書の入門書 古文書用語辞典

(2) くずし字解説辞典 かな解説辞典 草書字典

(3) 古語辞典 国語辞典 類語辞典

(4) 漢和辞典 異体字辞典 漢文入門書

(5) 日本史事典 歴史年表 旧暦事典 和洋暦換算事典